文献史料評価と地質調査による韓国済州島 11 世紀初頭噴火の地点特定（予報）

早川由紀夫（群馬大教育）・藤田明良（天理大国際文化）・
金　泰鎬（済州大学校師範大学）・山縣耕太郎（上越教育大）

Identification of the early 11th century Cheju eruption by critical reading of historical literature and surface geology - a preliminary report

Yukio Hayakawa (Gunma Univ.), Akiyoshi Fujita (Tenri Univ.),
Kim Taeho (Cheju National Univ.) Kotaro Yamagata (Joetsu Univ. of Ed)

韓国の済州島は，東西 70km 南北 30km の楕円形をした火山島である．すべて玄武岩からなり，その中央には標高 1950m のハンラ山がそそり立つ．この火山が 11 世紀初頭に噴火したと伝える文献史料がある．

1451 年に完成した歴史書『高麗史』にある次の記事はよく知られている．

> 穆宗五年六月，耽羅山開四孔，赤水湧出，五日而止，其水皆成瓦石．十年，耽羅瑞山湧出海中，遣大學博士田拱之，往視之．耽羅人言，山之始出也，雲霧晦冥，地動如雷，凡七晝夜，始開霽，山高可百餘丈，周圍可四十餘里，無草木，烟気羃，其上望之，如石硫黄，人恐懼不敢近，拱之躬至山下，圖其形以進.

あまり知られていないが，11 世紀初頭の耽羅噴火の基本史料にはもうひとつ『世宗実録地理志』の記事がある．これは 1432 年に完成した『新撰八道地志』（現存せず）を，1454 年に編集した『世宗実録』に，付録として載せたものである．内容は 1432 年当時のままと考えられ，一番古い現存記事である．そこには次のようにある．

> 高麗穆宗五年壬寅六月，耽羅山開四孔，赤水湧．十年丁未，有山湧出海中．耽羅以聞，王遣大學博士田拱之，往驗之．耽羅人言，山之出也，雲霧晦暝，地動如雷，凡七晝夜，始開霽，無草木，烟気羃，其上望之，如石硫黄，人不能進，拱之躬詣山下，圖其形以進.

『高麗史』も『世宗実録』も同時代の一次史料ではなく，噴火から 400 年以上経過した時期に編纂されたものであるが，成立年代ほかいくつかの理由により『世宗実録』のほうが，『高麗史』より，オリジナルに近いと考えられる．

『高麗史』の段階では「瑞祥」をあらわす一般名詞として使われていた「瑞山」が，1481 年に完成した『東国輿地勝覧』からは，固有名詞になるとともに場所を特定する意図も始まった．『東国輿地勝覧』は，「瑞山」は大静県にあるとした．　済州島は済州・旋義・大静に分かれるが，大静県は南西部 1/4 にあたる．

その後 1602 年の『南槎録』は，瑞山を飛揚島にあてる説を採用した．1703 年の『南宦博物』は，飛揚島では小さすぎるとし，大静県の盖波（加波）島を候補にあげた．しかし，飛揚島説は根強く，1709 年の『耽羅地図并序』で復活し，1750 年前後の『増補耽羅誌』でも継承された．今日巷間に広まっている飛揚島説は，これをみるかぎり，科学的根拠に乏しいものだと言える．

済州島の山麓に点在する多くの小火山の中でもとくに優美な火山地形をなす月郎峰（東部にある標高 382.4m のスコリア丘）は，厚さ 80cm のクロボクに覆われている．その中ほどに鬼界アカホヤ火山灰（7300 年前）のガラス片をみいだした．したがって月郎峰スコリア丘の年齢は，1 万数千年程度である．鬼界アカホヤ火山灰の上にも済州島のスコリアが何枚かみられるので, 7300 年前以降もこの島が噴火を繰り返したことが確かである．

1000 年前の噴火地点を特定する目的で, 新鮮な火山地形を有するいくつかの地域で地表直下のクロボクの厚さを観察した．ほとんどの場所で数十 cm 以上の厚さが確認できた．南西端の松岳山では，　1m クロボク/1m ローム/タフリング/溶岩/タフリングの重なりがみられた．

ただし北東部の臥山里周辺と南西部の新坪里・楮旨里周辺に広がるアア溶岩だけは，ほとんどクロボクに覆われていなかった．このような荒れ地を，現地では「コ」と呼ぶ．『東国輿地勝覧』が，「瑞山」は大静県にあるとしたことを考慮すると，11 世紀初頭の噴火は新坪里・楮旨里周辺に広がるアア溶岩をつくった可能性が高い．このアア溶岩は，標高 400m 付近から流出して扇形に広がりながら 10km ほど流れ下っている．海には達しなかったようにみえる．1007～1008 年に海中から湧出した瑞山そのものがどこにあたるかは，まだ不明である．